

阿南第一中学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

基礎・基本の確実な定着を図り、「生きる力」を身につけた子どもの育成
～つながろう言葉の力で つづけよう家庭学習～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 校長 松田雄史 教頭 宮田秀人、仁木博史 教務 橋本千恵
学年主任 清水 聖三、片山徹、西村正雄 国語主任 前田直美
森 篤之 英語主任 美馬貴子 数学主任 橋本千恵

校長

松田 雄史



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ	継続的な読書の習慣が身につけている。授業に前向きに取り組み、書くことへの抵抗が少ない。基本的な計算方法は身につけている。	①基礎的基本的な知識・技能を確実に身につけている。 ②正確に、すばやく判断できることをめざし、集中して学習に取り組む。	定期テストで正解率60%以上	小テストの回数を増やし、現在の授業の内容だけでなく、学習してから時間がたっている内容の復習もする。	授業の「めあて」を板書し、「振り返り」の時間をとることが、ほぼできている。各教科で小テストを行い、繰り返しの練習ができるようなプリントや課題が出せていた。	定期テストで正解率60%がほぼ達成できているが、学年・教科によっては達成できていないものもある。同様に、授業中集中して学習に取り組む生徒が多くなっているが、特に午後の授業で集中できない生徒も存在している。
課 題	漢字の書き取りに弱さが見られる。また、計算方法がわかっていてもミスをしたり時間がかかったりするの、時間をかけたドリルが必要である。	①授業の「めあて」と「振り返り」を明確にし、何を学習するのか何がわかったのかを学習集団で共有する。 ②複数教員による指導で繰り返しの練習に時間をかけ、小テスト等で学習内容の定着を確認し、必要に応じて個別指導を行う。	「めあて」をノートに書くように指導する。「学習活動の見える化」を推進する。朝自習のセミナーテストを指標として実施する。		評価 B	次年度における改善事項 授業の「めあて」と「振り返り」の明示を徹底し、「授業の流れ」についても生徒が把握できるようにし、見通しを持って学習に取り組む生徒をさらに増やしていく。また、板書の写真を撮影して残し、授業をよりよいものにしていくための資料とする。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ	発表の方法や手順がわかる学習については、意欲的に発表し、真面目に取り組む。	目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを豊かに表現することができる。	全国調査・ステップアップテストでの無解答を少なくする。特に活用問題での無解答を少なくする。	ペア学習や班で話し合ったことを発表する機会を作る。形式的にでなく意味を理解しての知識の定着を図る。文章を読み取るための音読を授業に積極的に取り入れる。	班での話し合い活動やその後の発表の機会を取り入れた授業が行われているが、全部の教科ではない。文章を読み取るための音読の機会は、全教科で増えてきている。「ふれあい授業」を実施したが、回数が少なかった。	授業中のペア学習や班での話し合いが活発にできるようになり、全国調査およびステップアップテストの無解答率は全般的に低くなっている。しかし、記述式の問題では依然として無解答が多く、何を書いてよいのかわからない生徒がいる。
課 題	文章の要旨をとらえたり、多くの情報から必要な情報を選択し文章にすることが苦手である。また、主体的、自発的に課題を見つけて解決していく力が十分備わっていない。他の者と協力し意見を出し合いながら理解を深めていく活動がもっと必要である。	①学習活動の中で自分の考えを筋道立てて文章に書く・表現する機会を意図的に設ける。 ②アクティブラーニングを意識した授業の展開を考える。	他の教員の授業を参観する「ふれあい授業」を実施し、指導力・授業力の向上を図る。		評価 B	次年度における改善事項 年度の初めに、全教員で同じ取組ができるように徹底する。引き続き、①音読を取り入れる②話し合い・発表の機会を作る③文章に表現する、の三点を積極的に進めていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ	落ち着いた授業態度である。課題の提出率も高い。	課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや喜びを感じることができ、さらに学習を深めていこうと主体的に考える。	家庭学習時間一年生70分以上、二年生80分以上、三年生90分以上	目的意識を持って学習に取り組めるように、指導の工夫をする。ユニバーサルデザイン(UD)の視点を取り入れた教育環境の整備を行う。	全学級で自主学習ノートの提出を継続させ、内容についても、模範となるノートを掲示したり家庭学習の内容を具体的に指示したりして、充実させるための取組ができていた。生徒会活動として、生徒ロッカー等のユニバーサルデザイン化を進めている。	「学習・生活アンケート」の結果から家庭学習の平均時間は確実に増えているが、一部の生徒は家庭学習の習慣が身につけていない。生徒ロッカーや机に関しては、予定した環境整備は、ほぼ完了している。
課 題	苦手分野を克服するため方法を考えたり、計画的な家庭学習を進めたりすることが十分でない。	「家庭学習の友」を活用する時間をとり、目標設定や実施状況について指導助言すると共に励ましの声をかける。自主学習ノートの提出を継続させ、充実したノートを他の生徒が見られるようにする。家庭との連携を図る。	家庭学習の状況を「見える化」して向上を図る。「学習・生活アンケート」を実施し、その結果を三者面談で共有する。		評価 B	次年度における改善事項 生徒全員の、家庭学習に関する意識を高めるために、引き続き教員からの働きかけを行い家庭と連携していく。さらに、生徒同士が良い刺激を与え合えるように、生徒会活動として「主体的に学習に取り組むための活動」を進めていく。具体的には、ユニバーサルデザイン(UD)の視点を取り入れた教育環境の整備を行う。さらには、ユニバーサルデザイン(UD)の視点を基盤とした教育の創造に取り組む。

平成30年度 学力向上ロードマップ

